

柿生文化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校校内
 電話:070-1503-6401、044-988-0004
 http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo
 第118号

シリーズ川崎の歴史を知ろう！
 「川崎の文化財」-17

麻生区内における旧都筑郡地域の古代の様子を想像してみよう(3) ～墨書土器が出土している旧都筑郡地域の遺跡②～

川崎市教育委員会事務局文化財課学芸員 栗田 一生

今回は、前回から引き続き、川崎市域の旧都筑郡内の古代を明らかにする上で重要な遺跡を紹介し、みなさんの身近に貴重な遺跡があることを知っていただければと思います(遺跡の番号は図1の番号に対応します)。

④上麻生大ヶ谷戸遺跡

上麻生大ヶ谷戸遺跡は、川崎市麻生区上麻生5丁目地内に所在しています。民間開発事業等に伴い 1985(昭和 60)年及び 1994(平成6)年に発掘調査が実施されました。調査面積は合計 655.9 m²です。調査の結果、縄文時代や古代の遺構・遺物が確認され、そのうち古代については、8世紀前葉～10世紀初頭の竪穴建物7軒、11世紀～中世初頭の土坑3基が確認されています。

⑤万福寺遺跡群百合ヶ丘No.1遺跡

万福寺遺跡群百合ヶ丘No.1遺跡は、川崎市麻生区万福寺4丁目地内に所在しています。万福寺土地区画整理事業に伴い 2001(平成13)年～2002(平成14)年に発掘調査が実施されました。調査面積は約 4,500 m²です。調査の結果、縄文時代、古代、近世以降の遺構・遺物等が確認されていますが、そのうち古代は、8世紀末葉～11世紀初頭の竪穴建物6軒が検出されています。

⑥万福寺遺跡群百合ヶ丘No.3遺跡

万福寺遺跡群百合ヶ丘No.3遺跡は、川崎市麻生区万福寺4丁目地内に所在しています。万福寺土地区画整理事業に伴い 2002(平成14)年に発掘調査が実施されました。調査面積は約 2,700 m²です。調査の結果、縄文時代、古代、中世、近世以降の遺構・遺物が確認されていますが、そのうち古代は、8世紀末葉～10世紀の竪穴建物2軒が検出されています。

⑦万福寺遺跡群百合ヶ丘No.4遺跡

万福寺遺跡群百合ヶ丘No.4遺跡は、川崎市麻生区万福寺5丁目地内に所在しています。万福寺土地区画整理事業に伴い 2001(平成13)年～2002(平成14)年に発掘調査が実施されました。調査面積は約 1,600 m²です。調査の結果、縄文時代や古代の遺構・遺物が確認されていますが、そのうち古代は、8世紀末葉～9世紀後葉の竪穴建物3軒が検出されるとともに、多彩釉陶器や緑釉陶器等が出土しています。

今回は、この4遺跡を紹介しました。これら遺跡は、いずれも現在の津久井道沿いに面した丘陵上に立地しています。このことから、古代に津久井道とほぼ同じ場所を通っていた道の存在が想像できます。次回もこの地域の遺跡の紹介を続けたいと思います。(つづく)

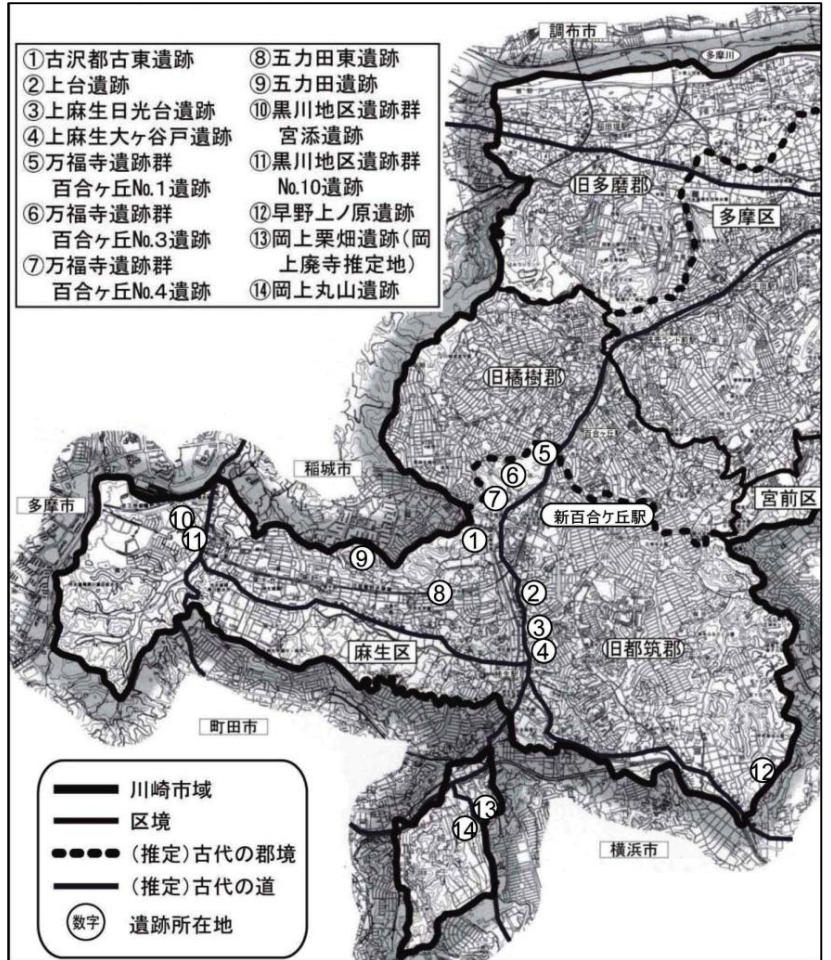


図1 麻生区における古代の郡境(推定)と旧都筑郡地域の主な古代遺跡

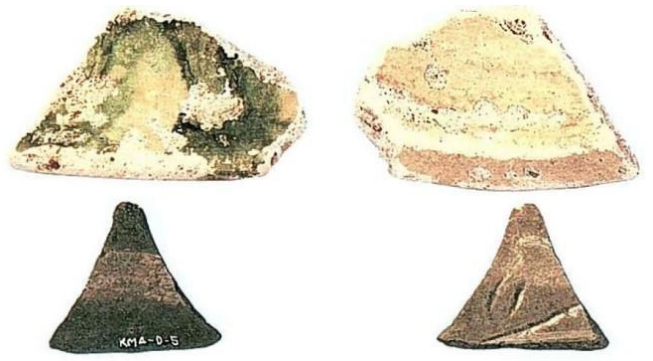


図2 万福寺遺跡群百合ヶ丘No. 4 遺跡出土多彩釉陶器・緑釉陶器(『万福寺遺跡群』(2005)より)

シリーズ

「麻生の歴史を探る」 第88話

鷹狩り御用、助郷

小島 一也 (遺稿)

鷹狩り御用とは、将軍や大名が催す鷹狩り(鷹を使って野鳥を取る)に、指定された村々が、狩場の調達や、宿の提供、勢子(せこ)の動員などを課せられた法度で、家康・秀忠・家光は特にこれを好み、獲物を捕らえる遊興だけではなく、軍事訓練や民情視察、それに江戸近郊の直参旗本の知行地を外様大名の狩場に与えることによって、獲物の交換・親睦と、幕府の基礎固めの外交施策でもあったようです。

この麻生での鷹狩りの伝承は今も残っています。上麻生仲村の鈴木家(現鈴木明家)には、この地方が越前(石川県)前田家の「鷹場」であったことを示す文書があり、鈴木家は屋号を「かさ」と呼び、村の名主をつかさどった家で、家屋内には鷹匠が泊まる部屋が二室あったと筆者は先代(俊作さん)から聞いています。鷹場の村の名主の役目は、役人・鷹匠の接待、鷹の獲物(鴨・鶉・雲雀など)を見張る鷹番所の運営、人夫・勢子の調達で、この鷹場の令は寛永十三年(1636)公布されますが、前田家の鷹場だけでも148ヶ村に及びました。鷹番所には毎年8月から翌年4月まで百姓二人が交代で詰めていたといい、寛文七年(1667)の記録では勢子1,000人が動員され、板橋を架けたり、獲物の餌の「けら」「みみず」を上納させられたり、農家には甚だ苦痛なものでありました。

貞享四年(1687)五代将軍綱吉は「生類憐みの令」を公布、この鷹狩りの令は終息したかに思えますが、上麻生村井上甚七家(現山口の井上宏家と思われる)には、元禄六年(1693)、前田家から賜った「拝領鷹場返上書留書」(鈴木家文書=市民ミュージアム蔵)があり、これは、この井上家も鈴木家と同じく鳥見役を務め、お鷹場屋2棟を持ったと言われる名主役で、記録によると甚七は前田家の依頼を受け、同じ鳥見役の溝口村彦兵衛などと返上について談合したとされています。

斯うして幕府の鷹場制度は終わり、農民の負担は軽減されますが、その後も大名や旗本の嗜好で鷹狩りは幕末まで続き、ただ王禅寺村だけは公儀鷹場はなく、鷹狩りはなかったそうです。

この鷹狩り御用と並んで農民を苦しめたのが「助郷」の制度で、江戸が都市化して街道が整備され、人馬の往来が激しくなって宿駅が設けられ、そこには伝馬(人・馬)の用意がされます。特に大名の参勤交代などには需要に追いつかず、村々に人馬の供出を義務付けたのが助郷制度で、本市の場合、元和九年(1623)川崎宿が東海道の宿駅となりますが、元禄七年(1694)には近郷38ヶ村が助郷村と指定され、文化三年(1806)、川崎宿への出役は年3万人と定められ、天文六年(1835)には、48,500人となり大変な負担になっています(川崎市史)。

麻生周辺の助郷先は甲州街道布田宿(府中)でした。此処へは麻生からは、菅、矢野口で多摩川を渡っての出役で、甲州街道府中宿に連なる宿駅ですが、東海道とは異なり伝馬数も少なく、当初布田宿5ヶ村が助郷とされていたものが、その後、街道の機能が増し、幕府は宝暦十二年(1762)「甲州街道中、五宿助郷帖」を作成しており、それによると現麻生区内では、岡上・王禅寺・金程村を除く近郷10ヶ村が布田宿助郷村に指定されています(川崎市史)。なお、助郷には脇助郷という制度があり、金程村は川崎宿の脇助郷だったともいわれ、私文書の中には東海道保土ヶ谷宿に助郷に出た(賃稼ぎ)との記録があります(小泉家文書)。



布田宿助郷村の分布と石高(寛永2年(1625)) 川崎市話より

文化元年入用		文政8年入用	
	文		文
炭・紙・筆代	2,148	御年貢買納金上納泊り小遣	4,500
畑方年貢石代金上納泊り小遣	1,800	浪人合力	1,404
廻米上乘雑用小遣	1,500	定免切替江戸泊り小遣	1,800
年貢船積みまで番人二泊小遣	1,000	炭・紙・筆代	912
皆済目録引換に江戸泊り小遣	900	宗門人別帳差上江戸泊り小遣	900
荒地起返し人別報告江戸泊り小遣	900	夏成年貢上納雑用小遣	900
布田宿助郷42疋分賃銭	16,800	布田宿助郷人足148人賃銭	37,000
布田宿助郷75人分賃銭	15,000	布田宿助郷馬32疋賃銭	15,000
助郷役人馬幸領9人差出	2,024	布田宿助郷総代給料	8,728
その他	4,598	その他	3,504
総合計	46,670	総合計	74,648
助郷関係合計	33,824	助郷関係合計	60,728
助郷入用の割合	72.5%	助郷入用の割合	81.4%

片平村入用帳(川崎市史より抜粋、加筆)

幕府終焉の幕末となっていきます。

参考資料:「川崎市史」「安藤家・鈴木家資料」「川崎史話(小塚光治)」

シリーズ
教育の歩み 第1部

学校の誕生と成長(6)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆パリ大学の場合◆

ボローニャ大学は学生組合を中心に形成され、法学部を核として成長したのですが、パリ大学はボローニャ大学とはかなり様子が違っていました。今日パリ大学は、1200年を設立年と定めていますが、これは時の国王フィリップ2世から、大学の自治に関する特許状を賦与された年(詳細後述)なのです。ですから、教授や学生の組合があって、講義や演習(ゼミ)といった知的営みが追究されていたという実質を見ると、12世紀半ばには誕生していたと考えざるを得ないのです。

さて、パリ大学では、教授の組合が学生の組合よりも大きな力を持ち、大学の中心をなしていました。13世紀中頃の資料があるのですが、それによると人文学部、神学部、法学部、医学部の4学部制が敷かれており、このうち人文学部は、一般教養を学ぶ教養課程にあたる学部で、他の3学部に進むために、どうしても通過しなくてはならない関門になっていた学部でした。

ただ、当時は教養学部を終えることで事足りりとする学生が多く、専門課程に相当する3学部に進む学生は、それほど多くなかったのです。そのため学生数や教授の数は人文学部が突出して多かったのです。そのためこの時期のパリ大学の学長は、人文学部出身者がほとんどだったのです。ただ、パリ大学の名声は、神学部にとりかかるところが大きく、全ヨーロッパから各地の司教区や修道院に属し聖職籍を持った人たちが、さらに深く神学を学びたいと集まって来るのが常でした。その結果、13世紀以降のローマ教皇の多くは、パリ大学で学んだ経験を持っており、教皇以外の高位聖職者の多くもまた、パリ大学で教育を受けていたのです。

当時のヨーロッパは、教皇権が王権をはるかに凌駕していましたから、教皇の特許状というお墨付きの効果は絶大でした。こうして神学のメッカとなったパリ大学では、教授の組合の力が学生の組合に優っていたのです。そのパリ大学には、前号で記したように篤志家の寄贈による学寮がありました。そのうち、寄宿舎部分と別に何室かの講義室を備えた学寮が誕生し、パリ大学は学校としての体裁を整えるようになったのです。

パリ大学より遅れて設立されたイギリスのオックスフォードやケンブリッジが、最初から学寮中心に作られたのは、パリ大学の行き方を参考にしたからに外なりません。

◆パリ大学と国王特許状◆

パリ大学が創立の年としている1200年の国王特許状が、公布されたいきさつを記しておきましょう。パリ大学神学部は、当時既に権威ある存在で、講義は全てラテン語で行われていましたから、西欧各地から優秀な学生が集まってきていました。その学生の多くは、卒業して郷里に帰れば、高位の聖職者の地位が待っているようなエリートでした。ですから彼らの多くは、単身でパリにやってくるわけではなく、身の回りの世話をしてくれる侍僕を伴って来ていたのです。

1200年のある日、その中の一人、リエージュの司教候補者であるドイツ人学生の侍僕が、深酔いして、酒屋で侮辱されたのです。侍僕の訴えを聞いた学生は、仲間を誘って大挙して酒屋を襲い、酒屋の主人を半殺しのめに合わせたのです。酒に酔った学生たちの乱行は、最近こそあまり聞かなくなりましたが、しばらく前までは、日本でも学生街の定番でした。こうした学生たちの乱行を、かねてから腹立たしく思っていた市民たちは、パリ警察に訴えて、警察官と共に武装して、酒屋の主人に乱暴した学生たちの逮捕に向かいました。学生運動華やかかなりし頃は、警察官と学生は犬猿の仲でしたが、それは中世でも同じだったようです。両者は大乱闘を演じ、5人もの学生が死亡する大惨事となったのです。

日本でも少し前まではそうだったように、当時の学生の社会的地位は、今とは比べ物にならないほど格段に高かったのです。そんな有為な学生を、5人も死に至らしめたとすると、事は大ごとになります。当然前段にあった学生たちの暴力事件は消し飛んでしまいます。こうしてパリ大学の教授と学生は一団となって、国王フィリップ2世に訴えて、虐殺事件の当事者である警察官の処分が行われぬのなら、全講義を休んで、パリを引き上げると告げたのです。

(続く)



フランス国王フィリップ2世(中央)



現在のパリ第一大学校舎(ソルボンヌ)

柿生郷土史料館催物案内 【入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

3月 4・11・18・25日(毎日曜日)

4月 7・14・21・28日(毎土曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時

第73回
カルチャーセミナー

常安寺の歴史と魅力

『名刹 王禅寺』の著者が、上麻生の常安寺について、新発見の未発表資料を駆使して詳しくお話し下します。

講師：三輪 修三氏 (郷土史研究家 元日本民家園園長)

日時：3月25日(日) 午後1時30分～3時00分

会場：柿生郷土史料館特別展示室

第74回
カルチャーセミナー

中世の杉山神社の史料を考える

中世の杉山神社については、数は少ないのですが何点か史料があります。ただその中には、後世になって意図的に作られた偽資料も存在します。そのため、史料の真贋を見極めることが大切な作業になります。

今回は何点かの史料について、その真贋と、偽史料の見極め方をお話しします。

講師：中西 望介氏 (戦国史研究会会員)

日時：4月28日(土) 午後1時30分～3時30分

会場：柿生郷土史料館特別展示室

第14回 特別企画展

「くらしの窓」に見る柿生地区の今昔 その3
～ 昭和から平成へ ～

昭和30年創刊のミニコミ誌「くらしの窓」が捉えてきた地域の姿を御紹介していますが、今回はその第3弾、昭和から平成への過渡期の頃の地元の姿を展示します。

期間 3月4日(日)～6月23日(土) 場所 柿生郷土史料館特別展示室

柿生郷土史料館友の会
第8回史跡見学バスの旅

下野国の名所巡り
足利学校、鏝阿寺、唐沢山城址

日 時：2018年4月18日(水)

主な見学先：足利学校、鏝阿寺、唐沢山城址

集 合：午前7時45分 新百合丘駅北口

解 散：午後6時30分頃(新百合丘駅北口→柿生駅付近)

費 用：9,000円程度(詳細未定)

申し込み：往復はがきに必要事項を記入の上、柿生郷土史料館まで 先着44名

必要事項：参加者全員の郵便番号、住所、氏名、年齢、連絡先電話番号

申込締切：4月5日(木)

問合せ先：小林基男 (080-5513-5154 または 044-989-0622)

